



みなみおか

第 21 号
2020. 3. 17
発行



6年生のみなさん 卒業おめでとうございます。(卒業式 式辞)

【祝福の言葉】

今、皆さんの手元にある卒業証書。手にしている卒業証書は6年間の努力の証です。いつも大人が近くにいないと不安だった頃の6年前の君たちは、6年間の月日を経てほとんどのことが一人でできるようになりました。決して毎日、学校へ行くのが楽しみだったわけではなく、つらくてしんどい時、悲しくて気持ちがふさいでしまった時、勉強が難しくていやになってしまった時などいろいろなことがあったでしょう。そんな、たくさんのハードルを超えて、今君たちはこの南丘小学校を巣立っていこうとしています。はじめに心から祝福の言葉を送ります。

6年生のみなさん、卒業おめでとうございます。

喜びあふれる君たちの笑顔、一人ひとりの未来への決意の言葉、そして、立派に育ち成長した姿をみて、本当に誇らしく思います。この会場にいらっしゃる保護者の皆様も幼いころのことを思い出しながら、たくましく育った姿をご覧になられて感慨深いものがあったことと思います。

保護者のみなさま、本日は誠におめでとうございます。

【桜の花のような6年生】

今年の冬は暖かい日が多いなあと感じていたところ、先週の14日に桜の開花宣言がありました。卒業式より前に…と書いていたら、観測史上最も早い開花だそうです。桜の花は、気温が高ければ早く咲き、低いと遅く咲きます。どちらの桜も同じで美しいです。桜はたった一輪だとそれほど人の目は引きませんが、満開になると人の心をひきつけます。そんなことを考えながら、6年生のみなさんのことを思い浮かべていました。ゆっくり成長してきた人、いろんなことに挑戦し続けた人、立ち止まってじっくり考えていた人、高い目標を掲げてもがきながらも一生懸命頑張っていた人、仲間

のことを自分よりも大切に思っていた人、いつも笑いを大切にしていた人など・・・書き出したらきりが無いぐらい、いろんな人の姿が目には浮かびます。人にはそれぞれ個性があり、感じ方も考え方も何もかも違います。特に、今年の6年生は個性的な人が多かったのだなあと思いました。でも、実際はそんな素敵な自分を出し切れないでいたようにも思います。桜の花のように、どの花も一見同じ花に見えますが、よく見ると少しずつ違います、個性的な人が多いのに、同じように見える、そんな6年生だったようにも思います。

友達思いの人がたくさんいるのに、なかなかつながれない時もありましたね。でも、みんなで苦労して団結できた時は、満開の桜のように見ている人の心をひきつけました。運動会の組体操、そして、1年生が6年生みたいになりたいと言った学習発表会の歌と演奏は見事でした。あの時の自分と仲間をしっかりと覚えておいてほしいと思います。

【自分と自分とつながる人を大切にしてほしい】

私は、君たちに「自分自身を鍛えよう!」「人とつながろう!」とずっと言い続けていました。生きていく上で、一番大切だと考えているからです。人と比べるのではなく、自分で自分自身を自分の思うように鍛えてほしいからです。そんな自分を自分で認め誇りに思うそんな人になってほしいと思います。そして、人は一人では決して生きていけないから、また人とつながらない仕事や生活はないから、人とつながりあって生きていってほしいからです。仲良くするという意味ではなく、常に人と人とはつながりあっているということを考えてほしいということです。そうすれば、自ずとこういう言い方をすれば人は喜ぶ、こういうことをすれば人は安心してくれる…ということが見えてくると思います。

自分を大切にしてください。そして、好きとか嫌いではなく、自分とつながる人も大切にしてください。

【できると信じたときに達成できる、自信をもって挑戦してほしい】

ここに割りばしが1本あります。そして、名刺の大きさの紙が1枚あります。さて、この紙で、木でできている割りばしを折ることはできるでしょうか?一人のひとりが、割りばしをこのように持ちます。もう一人の人が紙を立てて振り下ろします。どうですか?割りばしは折れると思いますか?実は、スパッと割りばしが折れるのです。実際に、私と教頭先生とでしてみました。見事できたのです。これは、実際にメンタ

ルトレーニング（心を鍛えるトレーニング）の一つとして、スポーツ選手や会社などで取り入れられているそうです。どうすればできるかという、「折れる」とイメージして紙を思い切って振り下ろすことが大事なのです。つまり、できないと思い込んでしまうと折れません。何か気づきませんか？そうです。みんなのよく使う「無理！」という言葉です。無理ってどこかで思っていると、割りばしは折れないのです。何かをやろうとするとき、絶対無理だから・・・と言ってしまった時点で、ハードルを超えることはできないということなのです。だけど、できるかもしれないと思って、思い切って挑戦してみると案外とできたりするものです。そういう心を鍛えるためのトレーニングがあるように、これから先何事も「できる」と自分を信じて、挑戦し続けてほしいと思っています。どうしても、しんどいなあ…と思うときには、それこそ無理をせず自分のできそうなことに挑戦しながら、できると思える日まで待つことも大事だと思います。

自分で「できる」と信じて、いろんなことに挑戦してください。

【地域の一員として生きていってほしい】

今日の卒業式には参列されてはいませんが、この南丘地域をよくしようとボランティアで活動されている方が地域にはたくさんいらっしゃいます。例えば、登下校の安全も見守ってくださっていた見守り隊のみなさん、あいさつ運動や地域清掃などを進めてくださってきた健全育成会のみなさん、毎年ぞうきんを寄付していただいている老人会のみなさん、また、PTAの役員の方のみなさん、少しでも子ども達にとっていい学校になればと活動してくださいました。ボランティアとして、みなさんをはじめ、この南丘に住む人たちのためにと自分の時間を削って活動してくださっています。みなさんの周りには、こんな素敵な立派な大人の方がたくさんいらっしゃいます。ぜひ、みなさんもこれからはされる側だけでなく、する側にまわってほしいと思います。地域社会の一員としてできることはたくさんあると思います。

【感謝の言葉】

最後になりましたが、保護者の皆様、これまで、いろいろなご苦勞がおありだったことでしょうか。学校では、保護者さまの願いにどれだけ寄り添えることができたかわかりませんが、教職員一同、この素晴らしい子ども達と共に、全力で教育活動に取り組んでまいりました。だから、どんな困難なことに出会っても、自分を信じて、仲間とともに、これからの人生を力強く生き抜いてくれるものと思っています。6年間、様々な活動のご支援、ご協力いただきましたこと心から感謝申し上げます。あり

がとうございました。

【最後に】

さて、いよいよ最後の授業が終わりの時を迎えます。練習をしていない卒業式を終えようとしています。最後は君たちの「門出の言葉と歌」で締めくくりです。かっこいい、素敵な君たちの姿を見たいと思っています。失敗してもいいので、自信をもって、思いっきり声を出して、締めくくってほしいと思います。

この、一年間、南丘小のリーダーとして、在校生を率いてくれました。引き継ぐ5年生の出席はありませんが、立派に巣立っていったことを次の5年生に伝えたいと思っています。

温かい家族や地域のみなさんに支えられ、この南丘小学校で育ったことを誇りに思っ、これからも前進してください。

この一年間、楽しい日々をありがとう！

君たちは、南丘小学校の誇りです。自慢できる立派な子ども達です。さあ、自信を持って夢に向かって大きく羽ばたいて下さい。期待します。

以上、私の式辞とします。

令和2（2020）年3月18日

豊中市立南丘小学校

校長 後藤 るみな

卒業式では、1年間を君たちと一緒に振り返りながら、成長の軌跡を追いたいと思っていましたが、時間の関係上できなかったことがとても残念です。みんなが活躍した場面をたくさん思い出しました。ほかに、林間学舎の帰り8時間もかかって帰ってきたこと、令和初の6年生であったこと、1学期の終業式が臨時休校になりそうだったので1日早く「のびゆくこども」をわたしたこと、新型コロナウイルスにより1か月も休校になったことなど、式辞では触れませんでした。このお祝いの言葉を考えるにあたり、いろんなことを思い出すことができました。ありがとう！感謝しています。（式辞の中で、式の時には省略したところもあります）